

行事／取組名称	学都「宮城・仙台」サイエンスデー2015 における第 2 チャレンジ紹介		
担当者	近藤泰洋（JPhO）、並木雅俊（JPhO）		
開催日時・期間	平成 27 年 7 月 19 日 9 時～16 時	会場	東北大学川内キャンパス
主 催	特定非営利活動法人 natural science	後援	
共 催			
協 賛			
概要			
特定非営利活動法人 natural science 主催による学都「宮城・仙台」サイエンスデーに参加、体験ブースとして出展した。物理チャレンジから国際物理オリンピックに至る過程をポスターで紹介し、全国物理コンテスト物理チャレンジのうちの第 2 チャレンジを実験セット展示中心として紹介した。			
参加者	教員	高校生	中学生
0 名		1 名	3 名

報告事項
学都「宮城・仙台」サイエンスデーは、子どもたちの知的好奇心と論理的思考力養うことを目的とした、地域に密着した研究、教育機関による体験型科学イベントであり、2007 年から始められています。JPhO としては、2014 年に仙台におけるジュニアチャレンジとして初めて参加、講座型の出展を行いました。その時の経験を生かし、2015 年は展示型として参加、ポスターによる国際物理オリンピックの紹介と、第2 チャレンジ実験セットの紹介を「第2 チャレンジを経験して見よう」という題目のもとに行いました。しかし、サイエンスデーの参加者の大部分が小学生以下とその保護者で、中学生以上の参加者は少数であったこと、また同室の他の展示に参加を希望する多数の小学生、幼児が我々の展示室の戸口をふさいだ状態で並んだため、ほとんどの中高生は、当展示の存在に気づかず、素通りしたようでした。このため JPhO ブース来訪者は、残念ながら、中学生3名と高校生1名のみでした。しかしながら、来訪者は興味を持って実験セットに触れてくれ、多くの質問をしてくれました。また、隣のブースに参加した小学生、幼児の保護者の一部には、ポスターや物理チャレンジ募集要項、実験セットなどを、興味を持って眺めてみてもらえたので、何年か後の物理チャレンジ参加のきっかけとなることを期待しています。 このような、小学生を主な対象とする科学イベントに物理オリンピック日本委員会が参加する際は、物理チャレンジの理論、実験問題ではなく、手を触れて面白い、物理の基礎にかかわる簡単な玩具を用意し、しかも持ち帰り可とすることが必要であると感じました。
 